

平成25年度内閣総理大臣賞受賞者受賞理由概要  
むらづくり部門

自立・継続する農業を実現し地域に貢献するむらづくり

○集団等の名称 農事組合法人ファーム大島 (代表 源 春夫)

○所在地 富山県射水市

○受賞理由

・地域の沿革と概要

- ① 射水市は、平成17年11月に新湊市、大島町、大門町、小杉町及び下村の5市町村が合併して誕生した。総面積は109.2km<sup>2</sup>であり、県都富山市と県内人口第2位の高岡市との間に位置している。
- ② ファーム大島のある大島地域では、主に水稻、大麦、大豆等の土地利用型作物が栽培されているほか、エダマメの生産拡大が図られている。

・むらづくり組織の概要

- ① 大島地域では、昭和63年から平成7年にかけて農村集落単位で営農機械の共同利用を行う集落営農組合が設立された。その中で赤井、小林及び八塚の3営農組合は、他集落に先立ち、経理の一元化等を行う組織へと発展した。
- ② この3営農組合が、平成15年2月からの1年間に約50回もの会合を重ねる中で、平成16年2月に農事組合法人ファーム大島が誕生し、その後、隣接する鳥取集落内の10戸も加入して、拡大した。
- ③ ファーム大島は、4集落の全農家97戸で構成されており、水田の作付計画を作成する総務企画部等の6部で機能分担しながら、効率的な運営を行っている。

・むらづくりの取組概要

(1) 農業生産面

- ① 水稻、大麦、大豆等の2年3作体系を確立し、耕地利用率120%を達成している。また、緑肥による土壌の改善等に努め、水稻の一等米比率は5か年平均で97.1%に及んでいる。
- ② 平成19年から、水稻に耕起や育苗を行わない「乾田V溝直播栽培」を導入し、県と協力しながら技術の確立に努めた。その結果、富山県における栽培指針の根拠となっていることもあり、県内外から多くの視察者が訪れている。
- ③ 機械オペレーターについては、マニュアル作成、60歳定年制導入等を通じて後継者育成を図る中で、50歳未満が約6割と他集落より突出して高くなっている。

(2) 生活・環境整備面

- ① 平成16年度から、大島小学校の5年生を対象とする田植え・収穫体験、収穫後の三世代交流などを行っており、地域住民の農業への理解を醸成し、地域社会とのつながりを深めている。
- ② 平成19年度には、法人が他地域に先駆けて育苗を開始した「ヒメイワダレソウ」が水田畦畔や法面に作付けされるなど、地域の景観美化活動に導入され、大島地域のイメージアップに貢献している。

・他地域への普及性と今後の発展方向

当該法人の取組は、先駆的な生産技術の導入等により効率的な農業経営と農村集落機能の向上を実現しており、集落営農のモデル経営体として高く評価できる。また、若者や女性の営農活動への参画、小学生などへの農業体験機会の提供などによって、持続可能な農業経営が実現しつつあり、地域貢献活動の発展が期待できる。